



山梨大学大学院総合研究部（工学域）

地域防災・マネジメント研究センター

Disaster and Environmentally Sustainable administration REsearch center, University of Yamanashi

プレス発表資料

2020年7月1日

国立大学法人 山梨大学

令和2年度事業計画：集水域の土地利用特性が河川生態系へ与える

影響の評価

【事業の概要】

河川集水域の土地利用形態（農地・森林・都市など）の違いは、河川へ流入する土砂や栄養塩・有機物の形態・量に影響を与え、流域の藻類・底生動物・魚類の生息状況が変動する。本事業では甲府盆地内の河川を対象に、土地利用と河川生息種の関係性を明らかにする。

- (1) 釜無川・笛吹川の濁度・河床材料・生息場調査
- (2) 藻類・付着微生物量調査
- (3) 環境水中のDNA解析を用いた生息魚種・底生動物群集解析
- (4) 集水域の土地利用状況の整理
- (5) 土地利用形態、河川環境、生息種の関係性調査

【役割分担】

- (1) 山梨大学：事業内容全体を担当
- (2) 山梨県：甲府盆地内の土地利用データの提供
- (3) 甲府河川国道事務所：河川水辺の国勢調査データ、河道写真などの提供

土地利用形態

森林 果樹園
水田
住宅地 畑



河川環境の変化

流入土砂
生息場の形状
栄養塩・有機物



河川生息種の変化

魚類
底生動物
藻類